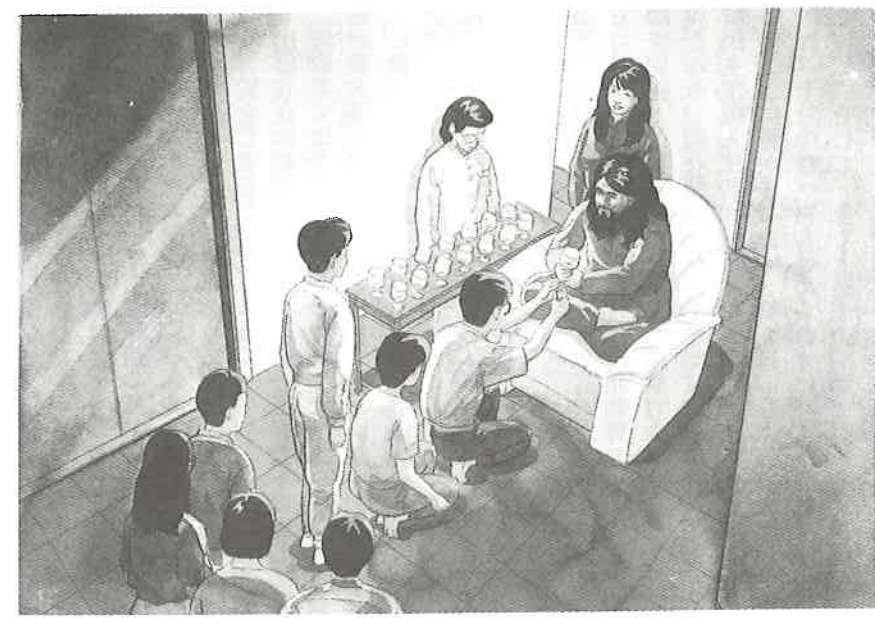


特集2 私を癒したあの歌 あの曲 こんな本



オウム真理教裏ワークの真相2

●94年、キリストのイニシエーションというほとんどの信者に対しての大イベントが上九教団施設で行われた。麻原氏から受け取った黄色い液体の入ったワイングラス。信者たちはその液体を飲み干し、それぞれ小部屋に移る。やがて信者は強烈なトリップに陥るのだ。その液体の名はLSD……。信者たちの反応は様々だったが、はたしてこれがオウムの教義における神秘体験と言えるのだろうか？オウム真理教厚生省メンバーによって製造された様々なドラッグ。LSD、メスカリン、覚醒剤……。今でもそのドラッグの影響により、精神的混乱を有する元信者は少なくない。地下鉄サリン事件を含み、オウムなら何をやってもいいと思っている現役信者よ。麻原氏、及び裏ワークに手を染めた幹部みずから犯した犯罪によって今裁かれつつある。あなたたちはそれを宗教弾圧などという妄想を捨て、現実を直視しなければならぬのではないのか？

<http://www.cnet-sc.ne.jp/canarium>

ハルマゲドン

この所どうもキナ臭い気がする。何か大変動が起ってからでは遅いので、今のうちに述べておきたい。

『ハルマゲドン』というのは、世界最終戦争を意味する。一部での戦争やまして大地震は『ハルマゲドン』とは言わない。ここ数年だけでも世界各地で激しい戦闘があった。多くの人が亡くなった地震、台風もあった。その場所の人にとっては『世界の終わりか』とも感じただろう。しかし、それを『ハルマゲドン』とは言わない。悲しくも歴史上繰り返されてきた。

日本と日本をめぐる情勢は決して楽観できるものではない。生粋の自民党議員さえ言うように、日本の政党政治は崩壊の危機にある。個人的には、数年以内にクーデターが起っても不思議ではないと思う(ちなみにヴァジラヤーナサッチャはそんな発想のよく似ていた青山元弁護士-アパーヤージャハ正悟師が編集していた)。北朝鮮の動きも不安である。国民が情報を得られないこと、経済的な危機にあることは、指導者が絶望的なしかし主観的には救済に向けた判断に陥る危険をもつ。いうまでもなく関東大震災はいつ起ってもおかしくない(だから都会地にはなるべく行かない)。

でも、そんなことがあっても『ハルマゲドン』ではない。繰り返しになりますが、歴史上繰り返されたことである。

それでもすべきことは、悲劇を防止し、少しでも泣く人を少なくすることだろうと思ひ、多くの人がそれぞれの考えで動いている。そして社会も政治も、多くの人のさまざまな力関係(理論、情、金銭、説得技術、地位そして数と有形力)で決まってくるのだと、つくづく感じている。

それでは、本当に『ハルマゲドン』になったらどうするか。冷戦はなやかりし頃はそんな映画や小説が随分あった。偶発の核戦争とかの想定、南極にだけ残った人類など。『それでもあしたのリンゴの木を植える』という話に感動した記憶がある。



歌を忘れたカナリヤ

歌を忘れたカナリヤは
後の山に捨てましょか
いえいえそれはなりません
歌を忘れたカナリヤは
背戸の小藪に埋めましょか
いえいえそれもなりません
歌を忘れたカナリヤは
柳の鞭でぶちましょか
いえいえそれもなりません
歌を忘れたカナリヤは
象牙の船に銀の籠
月夜の海に浮かべれば
忘れた歌を思い出す

- ◎カナリヤは歌を思い出す手助けをする。
- ◎カト ヤは自分で自分の歌(考え)を歌う。
- ◎カナリヤは歌を歌えなくなった鳥を乗てるのではなく、温かく見守る。
- (地球の揺りかごで)

発行カナリヤの会
連絡先 〒242 神奈川県大和市中央2-1-15 パークロード大和ビル2階
電話 0462-63-0130 大和法律事務所 窓口滝本太郎気付
FAX 0462-63-0375
購読費・カンパ 横浜銀行大和支店 普通1343078 カナリヤの会滝本太郎

私を癒したあの歌 あの曲 こんな本 その2

⑧ 『いま、女として—金賢姫全告白—』

二年前の五月、一緒に出家していた子供が保護されたのがきっかけとなり、私は教団施設から出てきました。初めは子供を取り戻したら膨大な量のビデオテープ（オウム関連の特別番組やニュース等）を観たりしているうちに、一連の事件はオウムがやったことを確信するようになり、脱会しました。文字通り全てを捨てて出家したのに、衆生のカルマを全て背負うと言っていた教祖は、救済者ではなく殺人鬼だったのです。さらに、身近にいた人たちが殺人等の容疑で次々と逮捕され、あるいはリンチ等で殺されていたという事実は、自分にとってあまりに非現実的で、頭の中がパニックになってしまいました。本でも読もうと書店に入っても、目につくのはオウム関係の本ばかり。でも、教団読んだらうんざりしてしまい、残りは押し入れの中へ・・・。

井の中の蛙のように教わった通りを忠実に遂行してきたわれわれが、あろうとは想像もつかなかったことだ。」「やがて彼女は、自分が行なった破壊工作に対する疑問に苦しむようになり、

「飛行機を爆破して多くの勤労者を犠牲にしたその行為が、はたして祖国統一を早めることに一役買うのか」（中略）

「南朝鮮の飛行機を爆破すると、オリンピックがソウルで開かれなくなるのか」

捜査を攪乱するために地下鉄にサリンを撒いたオウム真理教の信者達も、きつとこのように苦しんだ（あるいは今も苦しんでいる）のでしよう。マインドコントロールを受けていたからといって、彼らの犯した罪が消えてなくなるわけではないのですが、私は、現在拘留中の元法友たちのことを考えると、胸が締めつけられる思いがします。

中には、とても反省しているとは思えない人もいますが、私はそのういう人には是非この本を読んでもらいたいと思います。

私は、たまたま出家生活も短かったし、何の犯罪にもかかわっていません。たまたま出家生活も短かったし、何の犯罪にもかかわっていません。たまたま出家生活も短かったし、何の犯罪にもかかわっていません。たまたま出家生活も短かったし、何の犯罪にもかかわっていません。

⑨ 『犀の角のようにただひとり歩め』外

「癒し」などという極めて個人的なものを言葉にし、文章にし、紙面に載せるといふ行為は、なんだかどこかの怪しげな広告に似ている。「私は：に出会って癒されました！」という感じの言い方は前にいた教団を思い出させる。「癒し」自体は悪いものではないが、それが「与えられたもの」だと、癒された経験と結びついて再び「迷い」に入ってしまうおそれがある。私たち「元信者」はほとんどがあの教団に関わることで「癒された」経験を語っている。こうしたことを踏まえて個人的な「癒し」を語るなら、少しは読む人の参考にもなるかと思う。

私が教団を出て、最も「癒し」となった体験は、海外での「トリップ体験」である。これは主にハシシヨ（マリファナ）によるものだったが、私にとつては非常に大きな意味をもっていた。なぜなら私がオウムで体験し、ずっと行動の基礎となっていたのはドラッグによる「イニシエーション体験」だったからである。その時に垣間見た「永遠の世界」を、オウムとは関係なく味わうことができたのだ。私はその体験以来、「神に与えられた」時間を使って、「人生ゲーム」をせいぜい楽しもうと思えるようになった。言い換えれば「死があまり恐くなくなった」といえる。

本場の「癒し」は、自分自身の中にしかない。ただし、それを見つめる手段はたくさんあると思う。本や音楽、映画や絵、自然や人とのふれあい、瞑想やドラッグなど、そのなかに自分の求めるものがあるればなんでも「癒し」になりうる。

以下に「わたしを癒したものを羅列したいと思

「わたしを癒したものを」

- 音楽：アストラル音楽（特に『ウマー・パールバティの愛』）、『トップ・オブ・ザ・ワールド』（カーペンターズ）、『ティエラ』（邦楽ロック。ラルク・アン・シエル）等。
- 本：ヘルマン・ヘッセの後期小説群（『シッダールタ』等）、『Be Here Now』（ラム・ダス著）、『魂を磨く』『ハタ・ヨイガ』（成瀬雅春著）、『生・愛・笑い』（ラジニーンシ著）等。
- 映画：『ホーリー・マウンテン』、『新世紀エバンゲリオン』、『南京の基督』等。
- 最後に「私を癒した言葉」を引用したいと思う。
- 「犀の角のようにただひとり歩め」（スッタニパータ）
- 「地上の現象はすべて一つの比喩である。全ての比喩は魂が、用意さえてきていれば、そこを通過して世界の内部へはいることのできる開いた門である。その内部へ行けば、君も僕も昼も夜も、すべて一体なのである。どんな人でも、一生のうちに、ここかしこでその開かれた門に行きあたる。どんな人でも、いつかは、目に見えるものはすべて一つの比喩であり、この比喩の奥に精神と永遠の生命が宿っている、という考えを起こす。もちろん、この門を通過して行き、奥深いものを現実にはのかに感じて、美しい仮象を放棄する人は、少数である。」

（二十代 男性 元サマナ）

⑪ 『I STAND HERE FOR YOU』 外

私を癒したもの

脱会したとき 私を癒したものは、
大槻 ケンシのソロアルバム「I STAND HERE FOR YOU」
でした。

大槻が「青春の蹉跎」という映画のテーマに
あわせて、

「この先どんなことがあっても大丈夫、やれ、

笑ってやるから、オレが」

などなど、脱会後いろいろなことに踏み出す

勇気の出なかった私の背中をポンと押し

くれました。

最近私の心を癒してくれるものはたくさんあります。

・矢野 顕子 ピアノ弾き語り アルバム

「ピアノナイトリイ」

矢野 顕子が「やわらかい声で」涙を癒してくれます。

・エレファントカシマシ

「東京の空」

生きにくい世の中をフッと飛はしてくれる、

カッコイイ歌詞と声です。

聴いてみて下さいね。

(20代、女性、ネオマナ)

⑩ 『第九 - 歓喜の歌』

ベートーベン交響曲第九番

「歓喜の歌 An die Freude」

教団にまだ出家していた時、ある一枚のCDを買った。CDラジカセを持っていたので、ヘッドホンをつけて聞いていた。交響曲第九番と言われてもピンと来ない人もいるかもしれないが、年末の演奏会でよく歌われる「ダイク」だと言えばご存知の方も多だろう。最近では某人気アニメのクライマックス(第貳拾四話「最後のシ者」)で用いられているから、この曲を聞けば「ああ、その曲か」と分かる人もいるかもしれない。

私にとって、この曲はとりわけ特別なものとなっている。高校生の時、音楽の授業で歌って以来、非常に印象に残っている曲だ。そして、上九一色村の作業場で独り聞き続けた音楽。

当時の自分は非常に心がすさんでいた。教団に対する不信感・失望感が増大するのと同時に、自分自身に対する嫌悪感も増大していた。その状況を打破するものが何もなく、ただ教団に依存するのみであったように記憶している。その状況を打破したきっかけがこの曲だったのかもしれない。

ワークに必要なものを買に行くという口実で外に出て、町の中を歩いている時にCDがふと目に入った。買うのをいったんためらったものの、帰りの電車の中では一枚のCDを握り締めていた。暇さえあれば聞き続けた。そして、それから2ヶ月ほどして教団を離れた。

あれから3年以上が経つ。このCDは教団から持ち帰ったほぼ唯一のものだ。多くのものを教団で失ったけれど、わずかに得たもの、取り戻したものを大切にしたい。その象徴がこのCD。

最近、Johann Sebastian Bachの管弦楽組曲第3番、とりわけ Air (on the G String) を聞いてゆったりとした気分になるのを楽しんでいる。早起きの人は、朝6時に NHK-FM を聞くのを勧め。スピーカーから流れるバロック音楽が寝ぼけた心に心地よく鳴り響くのを感じることができる。最近朝寝坊ばかりだから、久しぶりに早起きでもしてみようか。

(ペンネーム BGM: Jesu, Joy of Man's Desiring)

薬物製造・使用・隠匿の実態

松本智津夫被告への冒頭陳述から

1 LSDの製造
 1 被告人がおしすすめていた教団武装化計画の一環として、平成五年十二月ころ、村井と中川が化学兵器としての利用のために、土谷に製造を指示。
 2 土谷は同月末ころ、M女、S女、T男に東京工業大学などで文献収集を指示。平成六年二月に土谷とM女で中間合成物であるLSAを四グラム合成。
 3 被告人は、平成六年二月二十日ホテルオークラ八五五室に幹部多数を集め、グループ毎に活動を検討させた。村井を通じ、遠藤と土谷にLSD一キログラムの製造を指示。早川に中間物であるLSAまたは酒石酸エルゴタミンをロシアで入手するよう指示。
 4 遠藤は、渡米することになった林郁夫にLSD合成の英語文献を依頼、四月一日に入手。遠藤、土谷にN女を補助に加えて標準サンプルを合成、五月一日カルポ法により数グラム合成、被告人に報告。
 5 被告人は、中川にS男に飲用させて効果を試すよう指示。中川は飲料水に混ぜてS男に飲ませると、錯乱状態。土谷も赤外線吸収スペクトル分析の際に名て錯乱状態。遠藤がこれら薬物を被告人

に報告し一部をわたす。
 被告人は一人でLSDを飲んで、数時間後に村井、遠藤、中川、早川を呼んで、イニシエーションへの使用を示唆、その後青山、井上、中村昇ら幹部十数名に対して使用量を変えて実験、キリストのイニシエーションを発案し量産を指示。
 6 遠藤は、N女とともに、平成六年五月ころから一月上旬ころまでにLSD合計約一一五グラムを製造。土谷の指導。

覚せい剤の製造

1 被告人は、LSDの幻覚症状を体験した事から、平成六年五月ころ、幻覚作用のある薬物のうち製造可能なものの製造を指示。村井は、六月上旬土谷に覚せい剤の製造を指示。
 2 土谷は、T女、S女とともに作業したが、最終の第三工程で成功せず。六月下旬、被告人は厚生省大臣とした遠藤を通じ、同次官の土谷に奨励。遠藤、土谷は、M女を補助者として、七月中に覚せい剤メタンフエタミン塩酸塩の標準サンプル五グラムの製造に成功。被告人は、村井から報告を受けて「修法」して遠藤に保管させ「ブツダ」と名づける。
 3 遠藤が土谷に、土谷がM女の

大量の製造を指示、九月頃までに七〇グラムを製造。一二月、遠藤が土谷に追加製造を指示、土谷はN男に指示、N男とM女で作ろうとしたが失敗。
 被告人は一二月末頃、土谷をよびつけて叱責、自らの手で作れと命令。土谷はN男に補助させて覚せい剤十グラムを製造して遠藤に渡す。土谷は更に、平成七年一月中旬ころから二月上旬頃、M女、N男、K女を使って覚せい剤一四二グラムを製造、三月上旬遠藤に渡す。

メスカリン硫酸塩の製造

1 被告人は、平成六年九月ころ、警察の捜索を恐れて法的規制のない幻覚物質を検討させた。遠藤は、サポテンの一種であるペヨーテが自然界に存在することから、これから得られるメスカリン硫酸塩を製造しようとした。
 2 一二月、遠藤はT女と二人で標準サンプル十グラムを製造。被告人は、一二月下旬遠藤から受領し、修法して法皇官房所属のK女に飲ませて実験、イニシエーションに使うために十キログラムの製造を指示。
 3 土谷、T女、H男で別の方法

オウム真理教における

一麻原彰晃こと

で合成実験をしたが失敗。別のH男、N男、T女で三月二日間で二三キログラムを製造。
 各種原料の調達
 1 偽名会社、ロシアからの五万米ドルと二十万米ドルでの大量の購入、ダミー会社からの購入。

使途等

1 キリストのイニシエーション
 平成六年六月上旬頃から、幹部、出家者、在家信者と拡大して使用。サットヴァレモンに体重に応じて〇・五ないし一ミリグラムの範囲内で決めて遠藤が入れていた。信者には利尿剤、利胆剤を服用させ、約四七度の湯に入れた。在家信者にはポリグラフ検査をした。おむつをつかうこともあった。十月ころまでに、十五歳未満を含む出家者一一〇〇人、在家信者二〇〇ないし三〇〇人に実施された。
 少量のLSDを使ったイニシエーションでは、法皇官房らが在家信者に出家の強要のためにつかわれ、二〇〇ないし三〇〇人に実施された。

2 ルドラチャクリンのイニシエーション
 平成六年十月ころから、LSD

のほかに覚せい剤を加えて開始した。平成七年三月下旬ころまでの間、信者一〇〇〇人に実施、在家信者には利尿剤、利胆剤の点滴。

費消状況

1 LSD
 製造の合計は、約一一五グラム。キリストで約一・五グラム（一五〇〇回分）、少量のLSDイニシエーションで〇・二ないし〇・三グラム（二〇〇ないし三〇〇回分）、ルドラチャクリンのイニシエーションで約〇・一グラム（一〇〇〇回分）、林が独自に信者に飲ませて試した約〇・一二グラムで、計約一・七グラムが使用された。変質したものを含め、約三グラムが費消された。
 2 覚せい剤
 製造の合計は、約二二七グラム、うち約六五グラムが、一〇〇〇人を対象にしたルドラチャクリンのイニシエーションに使われた。
 3 メスカリン硫酸塩
 標準サンプルは林、K女への試しに使われ、量産の三キログラムは押収された。

隠匿状況

1 薬剤は、遠藤らによって、当初シューツカ棟等で保管、平成六

年八月ころからは第二サティアンの北側入り口付近にあるブレハブ小屋内の地中に埋めた「迷路」と証する鉄管内に隠匿、必要のつど遠藤が出す。

右ブレハブの出入り口は鍵かかり、同年一二月以降は、右鉄管の一部に空けられた穴に油圧式で上下可能なリフトテーブルが取り付けられ、リモコン操作。そのリフトテーブルの上には水槽が置かれ、リフトを下げると、地面に単に水槽が置かれてるように見える工作がされていた。

平成七年三月二二日の強制捜査の後の四月上旬、被告人が遠藤およびI男に第二サティアンの鉄骨内に移し換えるよう指示する。鉄骨内二箇所に隠匿してまた穴を溶接して鉄骨を塞ぐ。

五月三〇日、三一日の捜索で見られる。LSD約一一・八八一グラム、覚せい剤一五九・一五六グラム、メスカリン硫酸塩二九八・二四七グラムが発見された。また、その二月上旬、H男N男は、土谷の指示で、富士宮市の電柱脇下に埋めて隠匿したが、八月二二日にメスカリン硫酸塩二・六九二グラムが発見された。